

アメリカ合衆国の社会と文化の
理解のための
カリキュラム開発研究

第2集

1995年1月

広島大学国際理解教育研究会

アメリカ合衆国の社会と文化の
理解のための
カリキュラム開発研究

第2集

1995年1月

広島大学国際理解教育研究会



グリーンビル市でのパーティ（1994年8月3日）



ミネアポリス市でのパーティ（1994年8月6日）

アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究 第2集

目次

はじめに

I	1994年度の研究の概要	I
1.	研究主題	I-1
2.	研究団体	I-1
3.	研究組織	I-1
4.	研究目的	I-3
5.	研究実施状況	I-3
II	1994年度の研究の内容	II
1.	事前研究	II-1
2.	予備調査	II-2
3.	現地調査	II-3
4.	事後研究	II-7
III	1994年度の調査研究	III
1.	チームAの調査研究 比べてみよう日本・アメリカの国技 ～「相撲」と「野球」でお互いを理解しよう～	III-1-1
2.	チームBの調査研究 家電製品からみた日米の衣食住	III-2-1
3.	チームCの調査研究 日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方の比較	III-3-1
4.	チームDの調査研究 年中行事にみる多民族社会「アメリカ合衆国」	III-4-1
5.	チームEの調査研究 アメリカ合衆国と日本の高校生の夏休みの過ごし方	III-5-1
6.	チームFの調査研究 日米の食文化の比較	III-6-1

IV	1994年度の教材開発	IV
1.	チームAの教材開発 「相撲」と「野球」でお互いを理解しよう	IV-1-1
2.	チームBの教材開発 まい・めぐ・けんたのドキドキホームステイ ～家電製品からみた日米の衣食住～	IV-2-1
3.	チームCの教材開発 日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方の比較 ～日本とアメリカの生活の背景にあるものは？～	IV-3-1
4.	チームDの教材開発 年中行事にみる多民族社会「アメリカ合衆国」	IV-4-1
5.	チームEの教材開発 クイズで知ろう！アメリカの高校生の夏休み	IV-5-1
6.	チームFの教材開発 日米の食文化	IV-6-1
V	1994年度の研究の評価	V
1.	アメリカ合衆国現地調査の自己評価	V-1
2.	各チームの研究の自己評価	V-5
3.	イーストカロライナ大学メンバーによる他者評価	V-13
4.	日本側評価者による他者評価	V-16
VI	1994年度の研究の総括と今後の課題	VI
1.	1994年度の研究の総括	VI-1
2.	今後の課題	VI-2

[編集後記]

はじめに

広島大学国際理解教育研究会が「アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究」プロジェクトを始めて2年目の成果を集録した報告書の刊行にこぎつけたことを関係者とともに喜びたいと思う。昨年と同様に本年も中国地方5県から選抜された現場教師によって構成されたメンバーは初対面の者が多かったが、研究会や現地調査を通してお互いに気持ちを通じ合い、連帯感をもって作業活動を展開してきた。とはいえ、定められた1年間のうち実質8ヵ月間の研究期間はまたたく間に経過した。この間、各チームごとの研究主題の選定に始まり、調査研究の計画、夏休み中のアメリカ合衆国の現地調査、調査結果の教材化という作業過程はめまぐるしく変化に富んだものであった。各チームの問題意識が明確であり調査研究がねばり強く行われたことによって、ここによくカリキュラムを広く世に問うことになったのである。

2年目の広島プロジェクトは何をわれわれに示唆してくれたのであろうか。

その1は、各チームがそれぞれ調査研究に当たって自らの学校生活や社会生活について問題を持ち、その解決を図ることを目指す課題意識を大切にしたことである。その課題意識は、自らの生活実感の中から生まれたものであるが、それがなければアメリカ合衆国の学校生活や社会生活にせまり理解を深めることはできなかつたであろう。我が国では、いま学校や社会では放課後や休み中の過ごし方、学校5日制に伴う休日の過ごし方など、解決すべき重要課題に直面している。そこで、余暇の利用では優れた実績をもっているアメリカ合衆国の場合を調査し、その理念や利用方法の具体例を明らかにする必要性が生じてくる。その場合、単に日本の立場からのみ見るのではなく、アメリカ合衆国の実態に即した理解が欠かせないのである。

また、われわれは生活習慣として種々な年中行事をもっているが、それと同様にアメリカ人も伝統的に年中行事を生活の節目として活用しているであろうという予想をすることができる。この予想のもとにアメリカ人の生活の実態を調査してみると、われわれが予想しなかつたような新事実を発見することができた。それは多民族社会に特有な現象であるが、各民族が自らの文化的伝統をもち自らのアイデンティティを失わないようにするための独特な行事をもっていることである。

その2は、日本文化の対米輸出を図ったことである。文化に限ってみると日本はアメリカ文化の輸入超過になっている。広島プロジェクトの目標はアメリカ合衆国の社会と文化を理解するための教材開発であるので、文化の吸収に努めることが当面のねらいになる。しかし、相手文化を知るだけにとどまらないで、積極的に日本の文化に触れてもらい、理解してもらおうとともに、文化のとらえ方に両者の間に差異があることに気付き、それが伝統的な考え方や風習に由来していることを理解し合った。例えば、我が国の国技としての相撲とアメリカにおける野球とを比べて考えてみる場合がこれにあてはまるであろう。

その3は、今回の調査研究で十分明らかにされたかどうかは疑わしいが、日米のかかわりが深くなっていることについて理解を深めたいと思う。経済における相互依存の関係、人物、言語、文化の相互交流は密度が濃くなっている。これらは単に日米の間に限ったことではなく、もはや地球的規模で進展している。日本の国内においても、また、アメリカ

の国内においても、両国の相互依存と交流の事実を見出すことは容易である。この問題を十分吟味することによって次の項目の解決に向かうことが可能となるであろう。

すなわち、その4は、両国の共通の課題を両者で協力しながらどのようにして解決していくことができるかについて、相互に考え、実践することである。そのための前提として相互の心の交流ということが欠かせない。両国の共通課題は地球的規模の課題につながっている場合が多いので、一つの事例として共同解決への糸口を見出すための教材の開発が望まれる。

その5は、教材の普及のための方策を視野に入れておくことが大切となる。いくら優れた教材であっても実践に生かされなければ意味がない。それには我が国のカリキュラムを改造することが考えられるが、それに際して広島プロジェクト参加者は調査研究で得られた英知を積極的に反映させる努力が求められていると思う。

今回の現地調査に当たっても、現地の大学、教育委員会や学校の関係者の温かい指導が得られた。また、米日財団の小栗章氏がチームにはり付いて指導していただいたことも有益であった。現地調査後のセミナーにおいても、ドン・スペンス氏を含めた3名の専門家の意見を聞くことができた。同時に、兵庫教育大学岩田一彦先生、広島大学棚橋健治先生（いずれも兵庫プロジェクト、鳴門プロジェクトの責任者）から適切な助言と示唆をいただいた。これら多くの方々に深甚の謝意を表したいと思う。

最後になったが、参加者の熱意と協力による積極的な教材開発作業に加えて、広島大学学校教育学部の小篠教授、小原助教授、濱口助教授の献身的な指導に対して敬意の念を示したい。

1995年1月1日

広島大学国際理解教育研究会

研究代表者 広島大学学校教育学部教授

溝 上 泰

I 1994年度の研究の概要

1. 研究主題

「アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究」

2. 研究団体

広島大学国際理解教育研究会

〒734 広島市南区東雲三丁目1番33号

広島大学学校教育学部

電話 082-281-3141

FAX 082-284-2406

3. 研究組織

(1) 研究代表者

広島大学 学校教育学部 教授 溝上 泰 (社会科教育学)

(2) 研究分担者

広島大学 学校教育学部 教授 小篠 敏明 (英語教育学)

広島大学 教育学部 教授 中山 修一 (地理学)

広島大学 学校教育学部 助教授 小原 友行 (社会科教育学)

広島大学学校教育学部 助教授 深沢 清治 (英語教育学)

(3) 研究協力者

① チームA

広島県東広島市立東西条小学校 教頭 生田 一人 (理科)

広島県東広島市立高美が丘小学校 教諭 津森 毅 (社会科)

広島県広島市立瀬野川中学校 教諭 小田原 順蔵 (英語科)

② チームB

広島大学附属三原小学校 教諭 朝倉 淳 (社会科)

島根県松江市立城北小学校 教諭 鈴木 理生 (社会科)

島根県松江市立第二中学校 教諭 高橋 和美 (英語科)

③ チームC

広島県広島市立井口台中学校 教諭 八松 泰子 (社会科)

岡山県倉敷市立南中学校 教諭 鍵本 芳明 (社会科)

岡山大学教育学部附属中学校 教諭 梶原 敏 (英語科)

④ チームD

広島県広島市立安佐中学校 教諭 梶 典之 (社会科)

山口県防府市立富海中学校 教諭 石丸 義臣 (社会科)

山口県立宇部高等学校 教諭 野村 卓也 (英語科)

- ⑤ チームE
 広島県立広島井口高等学校 教諭 増井 宏明 (社会科)
 島根県日野郡日野町立日野中学校教諭 松原 隆 (社会科)
 鳥取県立境水産高等学校 教諭 景山 浩之 (英語科)
- ⑥ チームF
 広島大学附属東雲小学校 教諭 富村 誠 (社会科)
 広島大学附属中・高等学校 教諭 田中 泉 (社会科)
 岡山県立朝日高等学校 教諭 鷹家 秀史 (英語科)
- ⑦ 研究補佐
 広島大学学校教育学部 助教授 濱口 脩 (英米文学)

(4) 評価者

兵庫教育大学 教授 岩田 一彦 (兵庫プロジェクト代表者)
 広島大学 教育学部 助教授 棚橋 健治 (鳴門プロジェクト事務局長)

(5) アメリカ合衆国側のコーディネーター

ドナルド・スペンス (イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)
 ウォルター・エンロー (ミネソタ大学国際理解教育研究所助手)

(6) アメリカ合衆国側の研究協力者

- ① チームA
 グレゴリー・ヘスティング (イーストカロライナ大学継続教育研究所副所長)
 ポール・シャーバン (ミネソタ州日米協会会長)
- ② チームB
 ヘンリー・ピール (イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科助教授)
 ボブ・エリクソン (ミネソタ州教育省グローバル教育センター所長)
- ③ チームC
 ドナルド・スペンス (イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)
 デール・エリクソン (ミネソタ州レッドウッド・バレー高等学校教諭)
- ④ チームD
 エドウィン・ベル (イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科教授)
 クリスティン・ソングスト (ミネソタ州ミネアポリス市ダウンタウン・オープン
 スクール教諭)
- ⑤ チームE
 H. C. ハジンズ (イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科長)
 キティ・エンロー (ミネソタ州ミネアポリス市ピルグリム・レーン学校教諭)
- ⑥ チームF
 パトリシア・キャンベル (イーストカロライナ大学教育学部初等中等教育学科教
 授)
 ロジャー・ワンゲン (ミネソタ州教育省社会科専門官・国際理解教育課課長)

⑦ その他

- ケイティー・タリー（イーストカロライナ大学農村教育研究所所長）
- ミホ・フジワラ（ジョージタウン大学大学院留学生，ワシントンD.C.）
- ミキ・テイラー（ミネソタ大学国際理解教育研究所学生助手）

4. 研究目的

- (1) アメリカ合衆国と日本の歴史的伝統と人々の生活を相互に理解するための6つのテーマ（国技としての相撲と野球の比較，電化製品を通して見た衣食住の比較，中学生の放課後の生活の比較，伝統行事の比較，高校生の夏休みの生活の比較，食習慣の比較）についての教材開発を，和文・英文の2ヵ国語で行う。
- (2) アメリカ合衆国側教師の協力による調査研究や教材開発のためのワークショップを通して，アメリカ理解学習と日本理解学習の情報・教材の交換を行うとともに，相互理解のための教材開発を日米教師の共同で試みる。また，その過程で日米の学校間・教師間のネットワークを作る。
- (3) アメリカ合衆国での異文化体験を通して，参加教師の国際理解を深める。
- (4) 参加教師の学校・地域での実践を通して，子供たちの国際理解を図る。
- (5) この研究を通して，学校・地域の中での国際理解教育のためのカリキュラム開発の視点を発見する。

5. 研究実施状況

- (1) 事前研究…4月～7月（教材案の作成・検討，広島市）
 - ① 第1回研究会…1994年 3月21日（月）
 - ② 第2回研究会…1994年 4月16日（土）～ 4月17日（日）
 - ③ 第3回研究会…1994年 5月15日（日）
 - ④ 第4回研究会…1994年 6月12日（日）
 - ⑤ 第5回研究会…1994年 7月24日（日）
- (2) アメリカ合衆国予備調査
 - ① 調査者（2名）…小篠敏明教授・小原友行助教授
 - ② 時期…1994年 4月28日（木）～ 5月 4日（水）
 - ③ 調査場所…グリーンビル市（ノースカロライナ州）→ミネアポリス市（ミネソタ州）
- (3) アメリカ合衆国現地調査（ホームステイ及びワークショップを含む）
 - ① 調査者（22名）…満上 泰教授・小篠敏明教授・小原友行助教授・濱口 脩助教授，研究協力者18名

- ② 時期…1994年 7月30日(土)～ 8月13日(土)
 - ③ 調査場所…グリーンビル市(ノースカロライナ州)→ワシントンD.C.→ミネアポリス市(ミネソタ州)
- (4) 事後研究…8月～10月(教材開発, 広島市)
- ① 第6回研究会…1994年 8月27日(土)～ 8月28日(日)
 - ② 第7回研究会…1994年 9月中(各チーム別)
 - ③ 第8回研究会…1994年10月21日(金)～10月23日(日)
- (5) 報告書作成…1994年11月～12月(報告書づくり)
- (6) 普及・実践…1994年 9月～

Ⅱ 1994年度の研究の内容

1. 事前研究

(1) 第1回研究会

- ① 日 時：1994年 3月21日（月） 10：00～15：00
- ② 場 所：広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内 容：
 - ・新旧研究協力者の引き継ぎ
 - ・第1年次の研究の概要紹介
 - ・第2年次の研究テーマの決定
 - ・第2年次の研究チームの編成
 - ・第2年次の研究計画の検討

(2) 第2回研究会

- ① 日 時：1994年 4月16日（土） 15：00～21：00
1994年 4月17日（日） 9：30～15：00
- ② 場 所：広島市国際青年会館7階研修室（アステールプラザ）
- ③ 内 容：
 - ・講義「国際理解のためのカリキュラム開発」
（研究代表者 溝上 泰 広島大学学校教育学部教授）
 - ・グリーンビル市，ワシントンD.C.，ミネアポリス市の紹介
（研究協力者 田中 泉，留学生 ジェニファー・ウィンザー）
 - ・研究チーム別の研究テーマの決定
 - ・研究計画の決定
 - ・現地調査計画の決定

(3) 第3回研究会

- ① 日 時：1994年 5月15日（日） 10：00～15：00
- ② 場 所：広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内 容：
 - ・予備調査の報告及び質疑応答
（広島大学教授 小篠 敏明，広島大学助教授 小原友行）
 - ・研究チーム別の現地調査計画の作成

(4) 第4回研究会

- ① 日 時：1994年6月12日（日） 10：00～15：00
- ② 場 所：広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内 容：
 - ・講義「アメリカ合衆国と日本の社会と文化の相互理解のための視点と方法－現地調査の在り方を中心に－」
（広島大学学校教育学部 深沢 清治助教授）
 - ・研究チーム別の現地調査計画の具体案作成

(5) 第5回研究会

- ① 日時：1994年 7月24日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内容：
 - ・アメリカ合衆国現地調査の最終案内
 - ・アメリカ合衆国現地調査の最終打ち合せ
 - ・現地調査計画の最終決定及び報告

2. 予備調査

(1) 調査者(2名) …小篠敏明教授・小原友行助教授

(2) 時期…1994年 4月28日(木)～ 5月4日(水)

(3) 調査場所…グリーンビル市→ミネアポリス市

(4) 予備調査の主な内容

- ① 現地調査の研究打ち合せ
- ② 現地調査の日程作成
- ② 現地調査のホテル予約

(5) 面会者

① グリーンビル市での面会者

ドナルド・スペンス(イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)

H. C. ハジンス(イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科長)

エドウィン・ベル(イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科教授)

パトリシア・キャンベル(イーストカロライナ大学教育学部初等中等教育学科教授)

グレゴリー・ヘステイング(イーストカロライナ大学継続教育研究所副所長)

ジョン・シャフィー(ピットカウティ教育事務所長)

② ミネアポリスでの面会者

ウォルター・エンロー(ミネソタ大学国際理解教育研究所助手)

ミキ・テイラー(ミネソタ大学国際理解教育研究所学生助手)

(6) 旅程

4月28日(木)

7:29	広島出発(のぞみ4号, 成田エクスプレス17号)
16:10	成田空港出発(NW 012便)
15:00	デトロイト到着
16:55	デトロイト出発(NW 640便)
18:29	ローリーダーラム(ノースカロライナ州) 到着 ホリデーイン・エアポート宿泊

4月29日(金)	
午前	チルドレンミュージアム準備事務所訪問 ノースカロライナ州教師教育研究会出席
午後	現地調査のホテル予約
15:51	ローリーダーラム出発(AA3334便)
16:36	グリーンビル(ノースカロライナ州)到着 ヒルトンイン・グリーンビル宿泊
4月30日(土)	
午前	現地調査の研究打ち合せ
午後	現地高校生日本語クラスのサマーキャンプ訪問 ローリーへ車で移動 ホリデーイン・エアポート宿泊
5月1日(日)	
9:40	ローリーダーラム出発(NW1725便)
11:24	デトロイト到着
12:40	デトロイト出発(NW1109便)
13:32	ミネアポリス(ミネソタ州)到着 ホリデーイン・メトロドーム宿泊
5月2日(月)	
午前	現地調査の研究打ち合せ
午後	現地調査のホテル予約 ホリデーイン・メトロドーム宿泊
5月3日(火)	
9:20	ミネアポリス出発(NW095便)
11:15	ロサンゼルス到着
12:25	ロサンゼルス出発(NW025便)
5月4日(水)	
16:20	大阪空港到着
18:42	新大阪出発(ひかり145号)
20:23	広島到着

3. 現地調査

(1) 調査者(22名)

① 研究代表者(1名)

溝上 泰 (広島大学学校教育学部教授, 社会科教育)

② 研究分担者(2名)

小篠 敏明 (広島大学学校教育学部教授, 英語教育)

小原 友行 (広島大学学校教育学部助教授, 社会科教育)

③ 研究協力者(6チーム, 18名)

④ 研究補佐（1名）

濱口 脩（広島大学学校教育学部助教授，英米文学）

(2) 時期…1994年 7月30日（土）～ 8月13日（土）

(3) 調査場所…グリーンビル市→ワシントンD. C. →ミネアポリス市

(4) 各チームの調査内容

① チームA

メンバー：生田一人，津森 毅，小田原順蔵

研究課題：国技にみるアメリカ人と日本人の見方・考え方
～「相撲」と「野球」でお互いを理解しよう～

調査目的：アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究の
具体的事例として「相撲」と「野球」に焦点を絞り，その比較を通じて
アメリカの人々のものの見方や考え方についての資料を収集し，教
材化のための準備を行う。

② チームB

メンバー：朝倉 淳，鈴木理生，高橋和美

研究課題：くらべてみよう！アメリカと日本の小学生の家庭生活
～電気製品を通してみる衣食住，わたしの夏休み～

調査目的：電気製品を通してみる衣食住や夏休みの過ごし方など具体的事象をも
とに，アメリカの小学生の家庭生活・スタイルやその背景にある考え
方を，日本のそれと比較調査し国際理解教育の教材をつくる。

③ チームC

メンバー：八松泰子，鍵本芳明，梶原 敏

研究課題：日米の中学生の放課後の生活の比較

調査目的：(1)同年齢集団を調査することによって日米の中学生の学校外の生活実
態と意識の一端を知る。

(2)実際の中学生の行動，生活様式を比較する。

④ チームD

メンバー：梶 典之，石丸義臣，野村卓也

研究課題：くらべてみよう！日米の年中行事と祭り

調査目的：日米の対比しうる年中行事（春夏秋冬より一つ程度）を抽出・比較し
て，その歴史的・地理的・文化的背景を探り，その共通点と相違点を
明確化する。そのことにより，日米の国民性・宗教観・行事（祭り）
への取り組み方や意識の特性を浮かび上がらせる。

⑤ チームE

メンバー：増井宏明，松原 隆，景山浩之

研究課題：夏休み中の高校生の生活の日米比較

調査目的：夏休み中に高校生が行うスポーツ活動，キャンプ活動，学習活動の場

を比較して、地域・学校の果たす役割の日米の違いを明らかにする。

⑥ チームF

メンバー：富村 誠，田中 泉，鷹家秀史

研究課題：アメリカの食文化における5W1H

調査目的：日米の食文化の比較を通じた異文化理解

(5) 旅程

7月30日(土)

13:10 成田空港ノースウェストカウンター前集合
16:15 成田空港出発(NW 012便)
15:00 デトロイト到着
16:50 デトロイト出発(NW1726便)
18:30 ローリーダーラム(ノースカロライナ州)到着
(ドン・スペンス氏出迎)
ローリー空港出発(ホテルバス)
ホテル「ベルベットクロークイン」宿泊

7月31日(日)

13:00 ローリー出発(ECUバス)
15:30 グリーンビル(ノースカロライナ州)到着
17:00 歓迎パーティー(ピッグピッキング)
ホテル「ヒルトン・イン」宿泊

8月 1日(月)

9:30 ロック・スプリングで全体会議(現地調査打ち合せ等)
11:30 パートナーとの昼食会(グリーンビル市市長同席)
午後 チーム別の現地調査
ホテル「ヒルトン・イン」宿泊

8月 2日(火)

7:30 チーフ・ミーティング
午前 チーム別の現地調査
午後 チーム別の現地調査
夜 ホームステイ

8月 3日(水)

午前 チーム別の現地調査
午後 チーム別の現地調査のまとめ
19:00 フレンドシップ・パーティー(バジンス博士宅)
ホテル「ヒルトン・イン」宿泊

8月 4日(木)

9:30 グリーンビル出発(ECUバス)
11:30 ローリー到着

- 13:55 ローリー出発（ドン・スペンス氏同行）（AA 516便）
 14:55 ワシントンD.C. 到着（ミホ・フジワラさん出迎）
 ホテル「セントジェイムズ」宿泊
- 8月 5日（金）
 9:45 溝上・小篠教授は帰国（NW1401便，NW 069便）
 午前 現地調査（スミソニアン博物館見学等）
 午後 現地調査（スミソニアン博物館見学等）
 夜 ケネディセンターのミュージカル観賞
 ホテル「セントジェイムズ」宿泊
- 8月 6日（土）
 12:15 ワシントンD.C. 出発（NW 405便）
 13:50 ミネアポリス（ミネソタ州）到着
 （ミキ・テイラーさん出迎）
 18:00 パートナーを迎えてのパーティ（広島プロジェクト主催）
 21:00 チーフ・ミーティング
 ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊
- 8月 7日（日）
 午前 チーム別の自由行動
 午後 チーム別の自由行動
 18:00 ミシシッピー川のリパークルーズ
 ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊
- 8月 8日（月）
 9:00 ミネソタ大での全体会議（現地調査打ち合せ等）
 午後 チーム別の現地調査
 夜 ナイター見学（メトロドーム球場）
 ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊
- 8月 9日（火）
 午前 チーム別の現地調査
 午後 チーム別の現地調査
 ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊
- 8月10日（水）
 7:30 チーフ・ミーティング
 午前 チーム別の現地調査
 午後 チーム別の現地調査のまとめ
 16:30 パーベキューパーティー（エンロー博士宅）
 ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊
- 8月11日（木）
 11:45 ミネアポリス出発（NW 007便）
 11:15 ロサンゼルス到着
 12:25 ロサンゼルス出発（NW 025便）

8月12日(金)

17:00 成田空港到着
18:30 成田空港出発(バス)
秋葉原ワシントンホテル宿泊

8月13日(土)

午前 東京出発
午後 各地へ到着

4. 事後研究

(1) 第6回研究会

- ① 日時：1994年 8月27日(土) 13:00～20:00
1994年 8月28日(日) 9:30～15:00
- ② 場所：広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内容：アメリカ合衆国現地調査の報告会議
- ・アメリカ合衆国現地調査のチーム別報告
 - ・研究チーム別の教材作成のためのワークショップ
 - ・教材作成の中間報告

(2) 第7回研究会

- ① 日時：1994年 9月中
- ② 場所：各研究チームの学校
- ③ 内容：研究チーム別の教材開発のためのワークショップ

(3) 第8回研究会

- ① 日時：1994年10月21日(金) 9:30～12:00
1994年10月22日(土) 15:00～20:00
1994年10月23日(日) 9:30～15:00
- ② 場所：広島市立井口台中学校，広島大学学校教育学部会議室
- ③ 内容：イーストカロライナ大学メンバーを迎えてのフォローアップ会議
- ・開発教材の研究授業
 - ・開発教材の報告
 - ・教材の修正・改善のためのワークショップ
 - ・来年度の研究への提言
 - ・評価者による評価